



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 11 号

令和 2 年 9 月 11 日 発行

文責 校長 宮地 浩幸

体育大会

令和 2 年度の体育大会を 9 月 5 日（土）に実施しました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から加唐小中学校と加唐保育所の児童生徒、園児、教職員、保護者及び来賓（本年度は規模縮小のため島内の一部の方だけにご臨席を賜りました。）で執り行いました。本当は島民の皆さんと一緒に実施したかったのですが、今の情勢では仕方なく、少し寂しい体育大会になりました。また、この日は非常に猛烈な台風 10 号の接近も気になるところで、朝から小雨が降っていました。それでも元々どのような天気でも実施できるようにと会場を体育館にしていたので、何も問題なく実施できました。天気があまり良くなかったことは、気温の上昇を抑え、熱中症のリスクを下げるもので幸いだったと思います。そして、気温が低かったために、マスクを有効に使うこともできました。もちろん新型コロナウイルス感染症拡大防止のためです。

また、本年度は臨時休業が長かったせいで、夏休みが短縮されました。2 学期の始業式は 8 月 24 日（月）でした。それから 2 週間、猛暑が続く中、練習時間もそう長くはとれず厳しい中での体育大会実施でありましたが、毎日の練習に子ども達のやる気を感じ、それを見ているだけで、きっと本番は立派にやれることを確信していました。大会当日、開会の言葉で子ども達から「待ちに待った体育大会」という言葉が発せられたとき、その充実感で嬉しくなりました。学校行事の中でも、体育大会や文化発表会は特に大切に考えます。そこには、子ども達の思いややる気を反映させることができるからです。今、学力観が昔と比べ大きく変わってきました。これまでは「何を知っているか？」への重点が大きかったことは否めません。もちろんこのことも大切ですが、それ以上に「知っていることをどのように活用できるか？」ということが問われる時代になりました。つまり、授業で培った知識や技能を何か実践的なことに使ってみる必要があるのです。体育大会では、その準備として話し合いをし、自分たちでいろいろなことを決めてもらいました。例えば、集団演技を、これまでの「加唐ソーラン」と「応援演舞」のどちらを行うかや大会スローガンをどうするかなどです。体育大会の規模縮小と練習時間の関係から集団演技はどちらか一つしかできなかったのは明白でした。子ども達はそれぞれ自分の思いや練習の見通しなどをもとにどちらがいいのかみんなで話し合い結論付けました。実はこのような方法を「対話的な学び」として学校現場の中では 1 つの授業形態として取り入れ、答えが 1 つでない解答を見つけようとするのです。一般の授業では教科の文脈がありますので授業で習得した知識を答えがわかっていない問題解決にどのように使いどのような結論を得ることができたかが大切になります。

さて、実際の競技は、児童、生徒、園児、職員、保護者を中心に進めることができました。子ども達の頑張りはもちろんのこと保護者の皆さんの熱が入った競技には家庭の温かさを見て取ることができました。あっという間に、大会は終了し、もう少し競技を増やしてもよかったなと惜しい気持ちもありましたが、練習時間も短く子ども達の体力も心配ですので、比較的に予定通り、安全な中で行うことができましたので、納得のいくものになりました。ひとえに子ども達の頑張りが大きかったと思います。体育大会の振り返りで、校長として「規模が小さな体育大会だったけれども、私が経験した体育大会の中でも、印象深かった体育大会の 1 つです。」と子ども達に感謝の



言葉を述べました。保護者の皆様や来賓の方もご協力ありがとうございました。



開会式



ラジオ体操



エール交換
団長がみんなにエールを送りました。
(左)

大玉転がし
児童生徒、職員、保護者が2チームに分かれて競争しました。(右)



加唐ソーランは、本大会のメインイベントです。毎日暑い中、一生懸命練習し、児童生徒及び職員が演技をしました。アンコールがかけられ、みんな大変でしたが、立派に踊り切りました。(上)

保育所からも、未来の加唐小中学校の児童生徒になる園児たちがかわいい演技を披露してくれました。(右)

